

地域素材を生かし、生徒の意識を大切にした『大地の変化』の指導

宮村立宮中学校 中島 直樹

1 指導の立場

(1) 主題設定の理由

昨年は『郷土の素材を生かした「大地の変化」の指導』について研究し、生徒の興味・関心を高め、「大地の変化」を教科書の中だけではない身近なものとして捉えさせる事ができた。しかし、教師だけの思いで地域素材を入れて単元構成した部分に課題を残したため、今年は、野外観察だけでなく単元全体を、生徒の意識を大切に構成し、指導することにより、もっと意欲的に学習し、学習したことが地域での生活やこれからの生き方につながるのではないかと考え、今回の主題とした。

(2) 研究仮説と研究内容

研究仮説

地域の素材を教材化したり、生徒の意識の流れを大切に単元を工夫したりすることで、大地の変化を身近なものとして捉え、自分たちの生活と関わらせて考えることができる生徒が育成できる。

研究内容

- (1) 生徒の意識の流れを大切に単元指導計画の工夫と野外観察の効果的な位置付け
- (2) 「大地の変化」に対する見方や考え方の高まりを自覚するためのコンセプトマップの活用

2 研究の実践

第1学年「大地の変化」

- (1) 生徒の意識の流れを大切に単元指導計画と野外観察の位置付け

単元指導計画の工夫(全21時間)単元構造図参照

野外観察の位置付け方 → 次の3通りとした。

- [1] 単元はじめて、大地への興味・関心の喚起。→第3時
- [2] 単元前半で、単元に広がる課題つかみ。→第3～5時
- [3] 単元おわりに野外観察をし、単元学習を振り返る。

→第20時

どのように単元指導を進めたかを次ページの単



元構造図で示した。[1]のねらいの野外観察を行う前に、コンセプトマップとアンケート[第1時]を書かせた。主な内容は、グランドを掘ると何が出てくるか。宮村の盆地はどうやってできたと思うか。宮村から化石は出ると思うか。お旅山はどうやってできたと思うか。など

このアンケートによって生徒の実態(意識)をつかむとともに自分の生活する大地の成り立ちに注目させた。また、アンケート結果を交流[第2時]することで、「知らないのは自分だけではない。」「これから学んでいくんだ。」「いろんな考え方がある。」「本当はどうなのか調べてみたい。」という意識に立たせることができた。

そして、野外観察[第3時]、[第4,5時(連続)]へと進む。図の太枠は野外観察の内容を、その下欄は、生徒の意識を示してある。その言葉は、実際に野外観察の場で生徒が発した感想であり、観察後のレポートにあった言葉である。昨年の研究結果を生かして図のように生徒の意識の流れを大切に単元野外観察を仕組んだ。これらによって、大地への興味・関心を喚起させること、単元に広がる課題をつかませることができた。そして、探究していくことの楽しさを知ることができた。

次に、野外観察後のレポート(感想、疑問、調べてみたいこと)を交流[第6時]する中で、生徒の意識を整理し、単元に広がる課題とした。後半は3ページ目

単元終了後、多くの生徒が「この単元が楽しかった。」と話していた。野外観察だけでなく単元全体をそうとらえることができたことは、生徒の意識の流れを大切に単元指導ができていたからだと考えたい。

(2)「大地の変化」に対する見方や考え方の高まりを自覚するためのコンセプトマップの活用



(上)単元の出口(右)単元の入口のマップ

このように1人1人が単元の前でコンセプトマップを作った。始まりの言葉はいずれも「大地」の語から始めた。入口のマップは、平均18個の言葉であった



が、出口では、平均39語となった。生徒は「たくさん書けるようになった。すごい。」「始めの倍以上書けた。自分でしっかり勉強できたと思いました。」「色々つながって楽しい。マップを作ると学習したことがわかりやすい。」と感想に書いており、コンセプトマップによって、単元の学習の成果を実感していた。また、コンセプトマップのつながりに広がりや深まりが表現できた事に、大地の変化に対する見方や考え方の高まりを自覚することができた。これらによって、学ぶ喜びを味わわせることができた。

最後第20,21時(連続)に、第3時と同じ場所で野外観察し、単元を終えての感想を書いた。

・今回の単元をやって印象に残っていることは、断層を見たことです。川の流れを変えるほどの地震が昔あったんだなあと思いました。この単元は大地のことがよくわかって、知識も増えて、とても楽しい単元でした。これから生かしていきたいことは、大地は生きているということを考えて暮らしていきたいなあと思いました。火山とか地震とか台風とか恐ろしいことがあるけど、大地は生きているのだから仕方のないことで、危険な場合は近づかないようにして、普段から備えをしておきたいと思いました。

・私は前まで家の裏の川をぼーっと見ていました。しかしこの単元を学習した今は、大地の変化や歴史が少しわかるようになって川を見るのが楽しいです。「どうやってできたのか。」「どこから石が来たんだろう。」と疑問をもつようになりました。大人になったら、どこに家を作るかの参考にしたいです。

・すごくこの単元でいろんな事がわかったなあと思いました。火山や地震は身近にあることを知り、すごくビックリしました。だから、今から備えていないといけないなあと思いました。また、昔の大地のことが知れたので良かったと思います。私は「地球」というものをもっと知ってみたいと思いました。なんか自然は怖いし、危ないし、いつ地震や噴火が起こるかわからないし、いつも怖いけど、だからこそ「地球」というものをもっと知っていきたいと思いました。

3 研究のまとめ

- 郷土の素材を今年2点精選追加し、生徒の意識を大切にしながら、野外観察を興味・関心の喚起、課題づくり、疑問の検証のために位置付けた。そのことにより単元全体を身近なものとして捉え、単元の出口では、郷土の大地の変化のスケールの広大さ、時間の長大さを理解し、今もその変化の歴史の一端にいるという思いを持たせることができた。
- 台風や火山、地震など自然は時折、激しい変化を見せるが、恐れるばかりでなく、その予測できない変化に注目し、備えをしながらも、郷土に対する愛着をもたせることができた。今後の生活につながる学習になったと考えられる。
- コンセプトマップにより、全員が「単元の学習を頑張った」という思いをもてた。また、多くの生徒に、「大地の変化」に対する見方や考え方が高まったと自覚させることができた。それが学ぶ喜びとなり、次への学習意欲につながった。
- コンセプトマップでは、学習した順に一本道を作る生徒もいた。学習事項にいくつかの方向があることや、基本と発展した事柄との区別をしたり、並列の関係の事柄を見つけたりするなど、学習しながら自分の頭の中にコンセプトマップを広げ、整理できる生徒の育成を今後研究したい。